

1 単元名

球技「ネット型（バドミントン）」

2 単元の目標

- (1) 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元について

(1) 教材観

バドミントンはネット型の球技で、コート上でネットを挟んで相対し、身体やラケットを操作してシャトルを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。ネット型の学習においては、ネット型に共通する動きを身に付けることが大切である。

第1学年では、勝敗を競ったり自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。その際、攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。また、バドミントンの学習に自主的に取り組み、仲間と助け合い教え合い、健康や安全を確保することができるようにする。

(2) 生徒の実態

本校は、体育の授業に対して肯定的な感情を持つ生徒から否定的な感情を持つ生徒まで幅広く在籍しているが、対象クラスは比較的前者の人数が多い普通科進学クラス（1年*組・*組）である。その中で、ソフトボールではなくバドミントンを選択した男子*人（*組*人、*組*人）と、女子*人（*組*人、*組*人）の合計*人で構成している。授業前のアンケートでは、*割が「体育の授業が好き」と回答している。また、バドミントンの経験に関しては、「中学の部活動での経験者」が*人、「中学の授業で活動したことのある生徒」が*割で、クラスの半数がバドミントン未経験者となっている。

直前のバレーボールの単元では、学習に自主的に取り組もうとする姿や仲間と助け合ったりする様子が見えた。一方、体力や技能の程度、課題を発見し解決していく過程に少し課題を感じている。そのため、バドミントンの基礎基本からスモールステップで取り組む必要がある。また、仲間と協力できる強みを活かして、自己や仲間の課題を発見し、教え合いながら解決していけるよう授業を工夫していきたい。

(3) 指導観

本単元では、技術の名称や行い方について理解し、状況に応じた技能でゲームを展開できることを目指していく。その際、これまで学習した知識や技能を活用して学習課題への取り組み方を工夫したり、自己や仲間の課題の発見や解決に向けて考えたりしたことを、他者にわかりやすく伝えられるようにしていく。また、互いに助け合い教え合おうとする態度や周囲の健康・安全を確保しようとする態度を身に付けられるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて言ったり書き出したりしている。 ②技術や戦術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて学習した具体例をあげている。	○技能 ①シャトルを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ②ラケットを強く振って、相手コートに打ち込むことができる。 ③サービスでは、シャトルをねらった場所に打つことができる。	①自己や仲間の技術的な課題について、自己の考えを伝えている。 ②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。	①バドミントンに自主的に取り組もうとしている。(自主性) ②互いに助け合い教え合おうとしている。(協力・責任) ③健康・安全を確保している。(健康・安全)

5 指導と評価の計画（10 時間扱い）

時		1	2	3	4	5	6	7（本時）	8	9	10
学 習 の 流 れ	0	○オリエン テーション ○知識の学 習 ○習得技術 の確認 ○学習の進 め方 ○グリップ の確認とラ ケット操作	○健康観察　○本時のねらいと内容の確認　○準備運動　○補強運動								
	10		○サービス練習						○スキルテスト（技能） ・ロングハイサービス		
	20		・ロングハイサービ ス	○ディフェンス練習 ・クリアー（リアコート） ・ロブ（フロントコート） ・バックハンド		○オフェンス練習 ・ドロップ（リアコート） ・スマッシュ ・ヘアピン（フロントコート）		※再チャレンジ可 ○シングルス ○ダブルス			
	30			○ラリー（サービス から長くつなぐ）		○ミニゲーム（半面シングルス）					
	40						○筆記テスト （知識、思考 判断表現）			○単元の振 り返し	
	50		○健康観察　○学習のまとめと本時の振り返り　○次時の確認								
評 価 の 機 会	知			①観察						②記述	総 括 的 評 価
	技					①観察		②観察	③観察・記述		
	思							①　観察・記 述		②観察	
	態		③観察		①観察		②観察				

6 本時の展開（7／10 時間）

(1) 本時の目標

○ラケットを強く振って、相手コートに打ち込むことができるようにする。（知識及び技能）

○自己や仲間の技術的な課題について、自己の考えを伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

(2) 準備・資料

ネット、ポスト、ラケット、シャトル、ホワイトボード、マーカー、タイマー、学習カード
筆記用具、タブレット端末、ファイル

(3) 展 開

時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援（◆評価規準と方法）
導入 10分	1 整列、挨拶、健康観察	・なるべく生徒の体調に気付けるよう、一人一人の表情を見ながら呼名する。怪我や調子が悪い場合には無理をしないよう呼びかける。 ・見学者がいる場合には「体育見学者レポート」を渡して記入させるとともに、仲間の課題を解決するために考えたことを伝えるよう支援する。
	2 本時のめあての確認	
	スピードのあるスマッシュを打つためにはどのようなポイントがあるだろうか。 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて考えたことを伝え合おう。	
展開 30分	3 準備運動 補強運動（シャトル鬼）	・基本の運動に加え、主運動に繋がる運動を実施することで、バドミントンによる怪我防止やパフォーマンス向上を意識することができるようにする。
	4 サービス練習 ○ロングハイサービス ○クリアー（サービスからラリー） ※目標 5 往復 5 オフェンス練習 ○スマッシュ ・デモンストレーション ・グループ練習（4分×4回） (A) 練習者 (B) 球出し (C) 撮影者 (D) コーチ ※3人のグループは（C）と（D）を兼ね、時間は5分とする。 コーチは練習者の動きを見てアドバイスをする。 【着目する点】 ①足の使い方 ②腕の使い方 ③力の入れ方	・周囲の安全を確保できるように、周囲の確認や活動エリアの整理などのルールを周知する。 ・ロングサービスライン付近を狙うよう伝える。フラインクの距離を延ばすために大切にしたいポイントについて問いかける。 ・スマッシュ練習の球出しにつながることも確認することで見通しを持たせ、主体的に取り組むことができるように支援する。 ・スピードのあるスマッシュを打つためのポイントはどこかを考えさせるために、特に足・腕の使い方、力の入れ方に着目させてデモンストレーションを見せる。 （バドミントン経験者がいないため教師が行う。） ・球出しが難しい生徒には、手投げにするなどの工夫をしても良いと伝えることで役割を果たせるようにする。 ・動画は横から撮影すると身体の動きが分かりやすいことを伝える。

	6 半面シングルス ○5点マッチのミニゲーム (1人1試合程度)	◆自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて考えたことを伝えている。(思考・判断・表現) 【観察、記述】 ○自分の考えを伝えることができない生徒に対しては、観察する際のポイントをより明確にして伝えることで自己や仲間の技術的な課題を発見しやすくする。 ①足の使い方(後ろ足から前足への体重移動をしているか) ②腕の使い方(逆手を上げて構えられているか。打つ直前に逆手を引いているか) ③力の入れ方(脱力しているか。打つ瞬間に力を入れられているか) ・消極的な生徒には、勝敗ではなく課題を見つけることが本時のめあてであることを伝えることで、ミスを恐れずに、積極的にスマッシュを打って試すことが出来るようにする。 ◆ラケットを強く振って、相手コートに打ち込むことができる。(知識・技能)【観察】
ま と め 1 0 分	7 健康観察 8 ワークシート記入 9 本時のまとめと次時の予告	・怪我や体調不良者がいないか確認する。 ・スピードのあるスマッシュを打つことができたか振り返りをさせるとともに、以下の3点について、具体的に記述するよう指示する。 ①課題を解決するために仲間に伝えたこと ②自己の課題を解決するために仲間からのアドバイスを受けて取り組んだこと ③今回の授業を活かして次回挑戦したいこと